

抄録

心理学について

森朋子

「心理学の過去は長いが、歴史は短い」。自らを唯一の被験者として、地道に記憶の研究を続け、今も心理学史の本で必ず紹介されている、**Hermann Ebbinghaus** の有名な言葉である。

ヒトや生物がこの世にある頃から、生物のこころのようなものは存在していたであろう。しかし、我々が確認できる文献は、**Aristoteles** や **Plato** に代表される古代ギリシャのものである。多くの学問の源は哲学である。医学も哲学と関係が深く、**Hippocrates** や **Galen** といった古代ギリシャの学者を知らない医療者はいないであろう。

心理学は、古代ギリシャ以降、イギリスの経験主義、心身二元論で有名な **Descartes** など、近代に至るまで、哲学と深い関係にあった。

心理学を独立した学問としたのは、**Wilhelm Wundt** である。**Wundt** は、1879年、ドイツ、ライプツィヒ大学哲学部に、世界初の心理学実験室を創設した。この年が心理学が哲学から分かれた年とされている。**Wundt** は医学と生理学を学び、**Helmholtz** にも師事した。

その後、パリの **Salpêtrière** 病院に留学し、**Charcot** に師事した、神経学医 **Sigmund Freud** が 19 世紀末に精神分析学を提唱する。由緒あるこの病院は、元は武器の材料庫であり、その後、女性の犯罪者、精神障害者などの収容施設であった。イギリス王室の **Diana** が息を引き取った病院としても有名である。

Freud の精神分析学は、心理学を科学に近づけようとしたが、芸術領域にも大きな影響を与えた。

一方 1913 年、アメリカでは、**John Broadus Watson** が、行動主義を本格的に提唱し、ここでまた、心理学は科学に近づいた。

翌 1914 年、**Freud** の弟子、**Carl Gustav Jung** (精神科医) が **Freud** と訣別し、後に分析心理学を提唱した。

1942 年、神学を修めた **Carl Rogers** が、クライエント中心療法を提唱し、患者という呼び方を「クライエント」に改め、人間の自己治癒力を重視した。

同じ頃、アメリカ、カリフォルニアで、家族療法が始まり、1965年には、ボストン会議でコミュニティ心理学が産声をあげる。治療より予防を重視するその考え方は、現在のコロナ禍にも通じる。

心理学はその後も発展を続けている。